

1 学校教育目標

生徒一人一人の個性を最大限に伸ばさせ、社会の発展に貢献できる人間性豊かな活力ある人材を育成する。

2 目指す学校像

- 自己の生き方や進路について主体的に探究し、目標に向かって挑戦を続ける生徒を育成する学校
- 他者を尊重し、豊かな人間関係を築くことができる生徒を育成する学校
- 社会の一員であることを認識し、社会人としてのモラルやマナーを身に付けた生徒を育成する学校

3 現状と課題（重点目標設定理由）

- ・教育内容の充実を図るため、生徒の自己肯定感・自己有用感を高める指導の充実に取り組む必要がある。
- ・校内における生徒の学びの充実を図るとともに、より開かれた学校づくりへの取組が必要である。
- ・働き方改革の取組を進めることは、引き続き喫緊の課題である。

4 目標

[中期経営重点目標]

○生徒一人一人が希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的に課題対応能力及びキャリアプランニング能力を高める取組を進める。

○生徒一人一人が円滑な人間関係を築けるよう、入学時から組織的・計画的に自己理解・自己管理能力を高める取組を進める。

○生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、入学時から組織的・計画的に人間関係形成・社会形成能力を高める取組を進める。

○教職員が、心身ともに健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組を進める。

短期経営重点目標（3年目）	具体的方策	評価指標・評価基準		評価		自己評価		
		努力指標	成果指標	努力	成果	成果と次年度以降の課題		
生徒の課題対応能力及びキャリアプランニング能力を高める取組を進めるため、教員の授業力の向上を図るとともに、生徒の探究的学習の充実や進路志望に応じた指導を充実させる。	授業改善を目指して研究授業を定期的に行うとともに、生徒の学習意欲を高める。	4	授業改善を目指した研修会を2回以上行い、校内研究授業の充実を図った。	4	生徒の単位修得率が、平日登校コース80%、通信教育コース65%以上だった。	3	○授業改善研修では、「授業改善を学習者の視点から考える」というテーマで、主体的・対話的で深い学びを実現するために、学習者の視点からどんな力をつけてほしいかを授業者が考え指導案を立案した。教員間の相互観察も実施し、授業改善に向けた取組を積極的に行うことができた。 ○通信教育コースでは、サポート教室や教科別質問教室を実施し、学習につまずきがある生徒の支援を行った。また、チューターや科目担当者が授業やLHRで単位修得の条件についての説明を複数回行い、個別に生徒に声掛けをするなど、日頃からきめ細かな取組を行った。 ○平日登校コースでは、生徒自身が出席できるような時間割となるよう個別面談等を通じて履修指導を進めた。近年は進路を意識して履修指導を行う生徒が増えた。欠課時数の多い生徒に対しては、声掛けや欠課時数の確認等をきめ細かな指導を行った。	
		3	授業改善を目指した研修会を行い、校内研究授業の充実を図った。	3	生徒の単位修得率が、平日登校コース75%、通信教育コース60%以上だった。			4
		2	授業改善を目指した校内研究授業を計画し、充実を図った。	2	生徒の単位修得率が、平日登校コース70%、通信教育コース50%以上だった。	1回		76.8%
		1	校内研究授業を実施した。	1	生徒の単位修得率が、平日登校コース70%未満、通信教育コース50%未満だった。			69.1%
すべての生徒の進路意識を高め、希望する進路を実現できるよう、JSTやチューターによる個別面談や進路ガイダンス、進路検討会議等の取組の充実を図る。	すべての生徒の進路意識を高め、希望する進路を実現できるよう、JSTやチューターによる個別面談や進路ガイダンス、進路検討会議等の取組の充実を図る。	4	進路ガイダンスや進路検討会議を年間5回以上開催し、JSTやチューターによる生徒の個別面談を行った。	4	進路指導に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が90%以上であった。	4	○進路ガイダンスを定期的実施し、教職員間で随時、情報共有をしながら指導をすすめるよう心掛けた。ガイダンスの資料は年次会等でチューターと共有し、欠席した生徒の対応の際に、ガイダンスの内容を伝えてもらえるようにした。 ○進路ガイダンスによって、生徒が先の見通しを持つことができ、計画的に個別担当者やチューターと連携することができた。 ●進路ガイダンスを欠席してその後の指導も受けられない生徒については、進路検討の時期が遅くなり出願や受験までの期間が短くなったため、十分な準備を行うことができなかった。こうした生徒に対してはチューターや進路指導部からの定期的な声かけが必要である。 ●チューターや進路担当者からの指示がなければ、自主的に動くことができない生徒が一定数いた。	
		3	進路ガイダンスや進路検討会議を開催し、JSTやチューターによる生徒の個別面談を行った。	3	進路指導に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が70%以上であった。	4		4
		2	進路検討会議を開催し、JSTやチューターによる生徒の個別面談を行った。	2	進路指導に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が50%以上であった。	6回		97.6%
		1	進路検討会議を開催し、チューターによる生徒の個別面談を行った。	1	進路指導に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が50%未満であった。	7回		99.3%
重点 生徒の自己理解・自己管理能力を高める取組を進めるため、教育相談、SSTの授業、学校行事や部活動などの充実を図るとともに、自己肯定感・自己有用感を高める指導を充実させる。	すべての生徒の自己肯定感・自己有用感が高まるよう、学校行事や部活動・生徒会活動等を充実させるための取組を進める。	4	生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって企画・運営を行った学校行事・生徒会活動を年間2回以上開催した。	4	学校行事等に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。	4	○生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって企画・運営を行った学校行事・生徒会活動を3回開催することができ、生徒が自らの活動の意義や影響を実感できる場面を作ることができた。また、生徒からの意見を反映させながら、新たな活動を実施したり、既存の内容を改善したりすることができた。生徒アンケートの肯定的評価は91.2%であった。 ●平日登校コースにおいては、昼間と夜間いずれの時間帯においても、体験的な活動をさらに充実させ、学校生活で授業以外の活動を増やしていけるようにしたい。 ●通信教育コースにおいては、外部資源の活用も含め特別活動のさらなる充実を図り、参加する意義を実感できる内容にしていきたい。 ●両コースともに、生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって活動していけるよう取組を充実させていきたい。	
		3	生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって企画・運営を行った学校行事・生徒会活動を年間1回開催した。	3	学校行事等に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が60%以上であった。			4
		2	生徒の意見を反映させながら、教職員が主導して企画・運営を行った学校行事・生徒会活動を年間2回以上開催した。	2	学校行事等に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%以上であった。	3回		91.2%
		1	生徒の意見を反映させながら、教職員が主導して企画・運営を行った学校行事・生徒会活動を年間1回開催した。	1	学校行事等に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%未満であった。			

	すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。	4	教育相談及びいじめ防止に関する研修を年間10回以上行い、学校全体で意識統一を図った。	4	学校生活等に係る生徒アンケートで肯定的な評価の割合が80%以上であった。	4	4	○年度初めにいじめに関する生徒指導研修を実施した。その中で、本校のいじめ防止等における基本方針と組織的な対応について共有し、いじめに関する共通認識を図ることができた。 ○平日登校コースでは年3回、通信教育コースでは年2回のいじめアンケートを実施し、気になる生徒に対して早期に組織的に対応し、対応後の生徒の様子も継続的に見守った。 ○配慮が必要な生徒については、生徒指導、教育相談、養護教諭、SC等の関係者で情報共有し、具体的な支援体制を構築した。 ○教育相談の全体研修・グループ研修を各5回行い、教育相談に関する知識や生徒対応の技術、配慮の必要な生徒の情報共有を行った。 ○チューターと連携して困り感のある生徒を早期に把握し、校内だけでなく、SSW、児童相談所、市役所、訪問看護ステーション等の外部機関と連携しながら支援につなげた。
	地域・企業との連携を強化し、生徒の進路希望達成率を高めることで、人間関係形成・社会形成能力の向上を図る。	4	JSTや進路指導担当者を中心に100社以上の企業等と連携を進めた。	4	就職希望者の就職率が70%以上となった。	4	3	○100社を超える企業との連携をすることができた。JSTが進路指導室に常駐しており、生徒が進路相談をしやすい環境であった。 ○面接練習や履歴書指導等に積極的に取り組んでいた生徒は早い段階で内定を頂くことができた。未内定者は、ハローワークや外部機関と連携しながら、進路実現に向けて積極的に支援した。 ●個に応じた支援・長期的な指導がさらに必要となっている。 ●年度当初、就職を希望していたが、欠課時数が超過したため、学校からの推薦をすることができない生徒が一定数いた。 ●受験をオンラインで実施する企業もあったが、ネット環境に課題があった。
	全ての生徒の自己管理能力を高め、生徒自らが情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、積極的に情報発信を行う。	4	ホームページ、みらい通信、グーグルクラスルーム、掲示板での情報発信を各コース定期的に年間24回以上行った。	4	学校生活等に係る生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。	4	4	○生徒が情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、ホームページ、グーグルクラスルーム、掲示板、みらい通信による情報発信を平日登校コースでは年間28回、通信教育コースでは年間26回行った。 ○学校生活アンケートでは、平日登校コースでグーグルクラスルーム・ホームページの活用について肯定的評価をした生徒は78.8%と50.1%、通信教育コースでグーグルクラスルーム・みらい通信の活用について肯定的評価をした生徒は71.8%と72.2%、ホームページ・掲示板の活用については49.3%であった。 ○平日登校コースで学校生活において満足していると肯定的評価をした生徒は88.8%、学校行事等に満足していると肯定的評価をした生徒は87.2%であった。通信教育コースで学校生活において満足していると肯定的評価をした生徒は93.7%、学校行事等に満足していると肯定的評価をした生徒は92.2%であった。
	開かれた学校づくりの取組が進むよう、聴講生制度や保護者・地域連携プロジェクトなどの情報発信を積極的に行う。	4	本校の魅力を発信するため、外部への学校説明会等を年間10回以上行った。	4	外部への学校説明会等の参加者が500名以上であった。	3	4	○本校への魅力を情報発信するため、中学校7校で年間7回の学校説明会を実施した。また、8月の広島市立高等学校・広島中等教育学校合同学校説明会に参加し、生徒と本校の魅力について発信した。 ○中学校の学校説明会に積極的に参加して情報発信しようとしたことで、昨年度に比べて、外部への学校説明会の実施回数と参加人数が増加した。 ●学校説明会を8回実施することで多数の参加者に本校紹介することができたが、努力指標の年間10回には至らなかった。 ●次年度も本校への入学希望者を増加させるため、本校の魅力について外部への学校説明会で情報発信を継続的・計画的に実施する。
	働き方改革の取組を進めるため、年間月平均の勤務時間外の削減とともに、年次有給休暇取得の促進を図る等の教職員の意識改革を進める。	4	定時退校の実施率が80%以上であった。	4	勤務時間外在校時間45時間以下(年間月平均)の割合が80%以上であった。	4	4	○4月～12月の教職員の定時退校実施率(3か月分抽出)は86.7%であった。 ○平日登校コース職員は4月～12月までの9か月間において、勤務時間外在校時間45時間以下80%を切ったのが4月(79%)のみであった。通信教育コース職員は全ての月が勤務時間外在校時間45時間以下90%以上であり、8月については100%であった。 ●主任級の職員の勤務時間外在校時間数が長くなる傾向にあるので、業務の平準化を図っていく必要がある。 ●異動で転動してきた職員の在校時間が長くなる(特に年度当初)傾向にあるので、職員間におけるサポート意識の強化を図る。 ●学校衛生委員会の機能を来年度も有効に活用することで、安定的な定時退校の実現に努める。

5 学校関係者評価に関する事項(主な意見等)

昨年度に比べ、単位修得率、生徒アンケートの肯定的評価の割合等は向上し、改善されている。
開かれた学校づくりに関して、「みらいへ行こう!プロジェクト(授業参観)」等学校行事への保護者の参加者がもう少し増えたら良い。

6 その他の報告事項

評価の努力は努力指標、成果は成果指標を示しており、波線で区切られた上段は平日登校コースの指標、下段は通信教育コースの指標を示しています。
自己評価の○は成果、●は次年度以降の課題を示しています。